

第9回 商工会女性部全国大会 (広島大会)



女性部代表者2,063名が集う

「地域のかげ橋、笑顔でつなく商工会女性部」をスローガンに、第九回商工会女性部全国大会（広島大会）が平成十九年十月二十四、二十五の両日、広島市で開催され、全国から女性部代表者二〇六三名が参加した。

大会は来賓多数の臨席のもと、六ブロックからの代表による主張発表、経済ジャーナリスト・佐藤治彦氏の「世界経済からみた日本経済。日本経済からみた地域経済」選別の時代を勝ち残るために」と題する基調講演に続き、女性部員増強運動表彰、商工会女性部カード表彰、女性の創業等支援事業及び子育てモデル事業の助成先発表等を行い、盛会裏に終了した。

■ 末武栄子・全女性連会長あいさつ

大会に参加の二〇〇〇名の商工会女性部員一人ひとりが「商工会と地域、地域と地域をつなぐかけ橋」としての自覚を再認識し、商工会活動の原動力、地域活性化の牽引車として活動することが、日本経済を元気にしていく一歩となることは間違いありません。他県の方々との交流、情報交換など大会を通じて学んだことを持ち帰り、組織の強化、地域の活性化に役立てていただければ幸いです。

■ 来賓祝辞

長尾尚人・中小企業庁経営支援部長

商工会は地域密着型拠点として、ピンチはチャンス」ととらえ、地域経済の活性化に成果をあげています。商工会女性部はそのよき協力者として、豊かできめ細やかな感性と果敢な行動力、ネットワークを活用して大いに力を発揮し、商工会活動の高度化に貢献することを期待します。

有岡 宏・広島県副知事

商工会は地域振興に不可欠な存在です。ことに地域の特産品開発には、商工会女性部の力が大いに役



立っています。女性部の皆さんのパワーはよく知られるところですが、この大会で交流の輪を広げ、さらに飛躍されることを祈ります。

■ 後援あいさつ

清家 孝・全国連会長

全国連は、小規模事業対策のより一層の充実と、国が県に移譲した補助金が確実に執行されるよう強く要請して参る所存です。女性部の皆様に、こうした全国連の動きを強力に支援していただくようお願い申し上げます。

大会スローガンにあるように、これまで以上に地域と商工会とが手を取り合い活性化を図っていくことが、商工会、そして女性部の更なる飛躍につながると確信しています。

この大会での新たな出会いが、笑顔に満ちた元氣な地域社会と明るい未来をつくりていくきっかけとなれば、これに優る喜びはありません。大会が大きな成果をあげ、女性部が一層活性化されますことを期待申し上げます。

加島英俊・広島県連会長

商工会が取り巻く環境が大きく変化の中で、地域になくはならない商工会となるために、女性の力はぜひとも必要です。スローガンにあるように、商工会女性部が地域のかげ橋として地域をつなげ、豊かなまちづくりの担い手となるよう尽力していただきたいと思います。



■主張発表要旨

最優秀賞

■発祥の地花笠踊り・おもてなしの心

山形県尾花沢市商工会女性部 柴崎玲子



花笠踊りは、私が住む尾花沢市の徳良湖が発祥の地です。私たち女性部は、尾花沢の銀山温泉で平成三年から花笠踊りを五月から十月までの毎週土曜日に披露しています。家庭を持つ主婦が一〇キロ離れた銀山温泉まで半年間通い続けることは並み大抵ではありませんが、部長を中心に話し合い、地域発展のため、みんなが一つになればやれないことはないと思いついて、続けています。郷土の歴史、おもてなしの心について、部員一同で勉強も重ねました。

夜八時二〇分、旅館街はぎゅっしりとお客様で埋まります。大正ロマンあふれる銀山温泉のガス灯下の赤い橋が私たちのステージです。踊りが始まると、カメラのフラッシュがあちこちで光り、大きな声で「ヤッショ、マカシヨ」とかけ声をかけてくれる人たち、見よう見まねで踊り出す人もいたり、踊り手とお客様が一体となり、とても楽しい雰囲気になります。踊りを見た感想やメッセージを添えて写真を送ってくださる方もいます。花笠踊りをやってよかったですと思う時です。

一五年前、先輩部員さんから誘われ、好きな踊りをやれるなら簡単な気持ちで引き受けましたが、女性部活動に参加するのが楽しくなり、すっかり女性部にはまっています。これからも家族の協力を得ながら、女性部に役立つ自分になりたいと思います。

「山形から花笠踊りを世界へと発信したい」と大きな希望を抱き、女性部活動にますます頑張ります。

優秀賞（発表順）

■今、この現況、そして未来は

茨城県那珂市商工会女性部 増子文子



七年前から開講の女大生「なかカレッジ」の一般公開に踏み切りました。大切なお客様に参加していただき、一緒に喜びを分かち合えたらと、商人の本音から出た発想です。予想をはるかに上回る応募者があり、学生は三〇〇人に達しています。

曲屋を舞台に、服飾学の講座としてファッションショーを催しました。スーパードルはもちろん日はモデルさんのおじいちゃん、おばあちゃん、両親など家族総出でかけつけ、行政、市民、なかカレッジが一体となった十三夜の下でのお月見の会は、心を通わせる格別の行事となりました。

関東ブロックの主張発表大会もカリキュラムとなり、茨城県代表として「なかカレッジ」の発表ということもあり、一般学生一〇〇名を乗せたバス数台連ねての大応援団の研修となりました。そして、全国大会への切符を手に入れ、カレッジ生と感動とともに味わえたことは、なにより喜びとなりました。感動をまた一緒にと、カレッジ生がこの広島の地に足を運んできています。

何事もちよつとした発想の転換で、このように大勢の人を巻き込み、それが大きなうねりとなります。「なかカレッジ」はお客様と私たち商人をつなぐ地

域のかけ橋であり、地域の大切な宝物となったと感じています。これからは私たち商工会女性部の出番です。知恵は無限—未来へ向かって。

■ハッピーハロウィンinおさわのほそいり

富山県大沢野細入商工会女性部 前田敬子



五年前、京都・北山に住む孫の運動会に出かけた夜のことでした。かぼちゃランタンのコンテストが行われてい

て、かぼちゃのお化けからトトロなど、闇にぼーっと浮かぶ初めて目にする多数のかぼちゃランタンの見事さと迫力に、釘づけになりました。翌日の仮装パレードにはたくさんの方が集まり、楽しそうなハロウィンにはもう驚きでした。

大沢野の商店街に、かぼちゃのランタンが飾られて賑わったらすごいだらうと思いい、女性部にはかつたところ、「やってみつけ！」とノリのよい部員の後押しで、「ハロウィン・イン大沢野」と銘うって、企画が発車しました。

秋になって、かぼちゃは二〇名の方から一〇〇個余りが集まり、重量当て用の大かぼちゃは入善町の「どでかぼちゃ愛好会」からいただきました。でき上がり、整然と並んだ一〇〇余りのかぼちゃのランタンは、ロソクの花で甘い香りを放ち、小雨の道路に反射した灯りは幻想的で、見る人に感動いただけるものとなりました。

翌日は仮装パレード。三人の素人チンドンマンを先頭に、子供たちの可愛らしい仮装あり、大人の過激な変装があったりで、周りは笑顔があふれ、私たちの手で賑わいをつくり出せたと感じました。スタンプラリーなどいろいろな企画を足し、今年、私た

ちのハロウィンも四回目を迎えました。皆さんも仮装してお出かけになってみませんか。病みつきになりますよ。

■発信！お雛さまの生まれる町からメッセージ

兵庫県加東市商工会女性部 山下洋子



節句人形、鯉幟、釣針の生産が盛んな自分の町を知ろうと、地場産業ふれあい講習会を設けました。第一線で活躍の職人さんを講師に、講義、製作体験ありとバラエティに富み、歴史や作業工程を学びました。

学んだことを地域の活性化につなげようと、雛人形の着物の生地で十二単をつくり、地域の子供にお雛様になってもらうことにしました。「男の子には、端午の節句には早いけど、陣羽織と袴はどう」とアイデアはどんどん膨らみます。部員手づくりの十二単が完成したのは、四ヵ月後の二月末。雛祭りはおうすぐそこです。

五つの保育園を訪問し、園児に着付けをする「わくわくお雛様体験」を実施しました。金屏風に赤い毛氈を敷き、男の子はりりしいお殿様、女の子はちよっとすましたお姫様に変身。平安時代にタイムスリップした光景に思わず「わあー、かわいい」と歓声があがり、両親は記念撮影です。子供たちの嬉しそうな顔、かわいい姿を見て、本当によかったと涙が出るほど幸せで、今までの苦勞も吹っ飛びました。皆の力を一つに結集したこの事業で、私たちは一回りも二回りも成長したといえます。

加東市商工会女性部として新たな船出をした今、仲間の輪も広がり、情報や知識を多く得ることができるといわれています。小さなアイデアの芽を育て、

大輪の花を咲かせられるよう奮起していきたくと思っています。

■今の私にぴかぴか

鹿児島県大浦町商工会女性部 有木由美



私の九州地区主張発表大会での優勝が新聞に取り上げられ、「久しぶりに元気をもらった」と町の話題となり、町の期待を背負いながら、今日この大舞台での発表を迎えています。

日頃控えめの大浦町商工会女性部が、八月、思い切った取り組みをしました。商工祭りで、赤と黒の奇抜な衣装で山本リンダの狙い撃ちを「ウララ、ウララ」と踊ったのです。会場からは沸き立つような歓声と拍手。大成りだったことはいまでもありません。踊らないメンバーはうどんの販売にあたるなど、一人ひとりができることを見つけ、心を一つにして祭りが終わりました。先輩から「有木さんの主張大会での活躍がみんなの心を動かしたのよ」といわれ、感激しました。

難しく考えず、私たちも楽しんで、住民に喜んでもらえる活動を行っていくことが大事なのではないかと思っています。

私たちは来年四月、近隣三商工会と合併します。不安を感じていましたが、心配いりませんでした。今日この会場へ、合併する商工会を含めた鹿児島県内の女性部の方々が「あなたの街も私の街も同じだからね」と応援に来てくれてあります。この仲間と元気で活動に参加したいと思っています。

「南さつま市の女性は元気で生き生きしている」といわれるようになるのが私たちの目標です。地域

を豊かにすることにつながるからです。これからも「今の私にできること」を探し続けていきたいと思っています。

■心をひとつにして

香川県さぬき市商工会女性部 尾端美紀子



合併により部員数三〇〇名となった大所帯のさぬき市商工会女性部の誕生で取り組んだ大事業、地図入り電話帳「コミュニケーションさぬき」が好評だったので、子や孫に住みよい地球環境を残そうと、リサイクル運動として、割りばし回収を行いました。

イベントで「割りばしリサイクル実施中！リサイクルして紙にします！みんな協力してね！」と書いたポップを掲示したり、部員一同で分担して飲食店を回り、協力をお願いしました。たまたま割りばしをわざわざ持ってきてくださる方、会合などで使った割りばしを持ってきて「頑張つてな！」と励ましてくださる方など、感激の日々でした。

二ヵ月で車二台分の割りばしが回収できました。割りばし三膳でA4サイズのコピー用紙一枚またはハガキ一枚がつくれ、五〇〇〇本でボックスティッシュ一五箱ができ、品質は新しい木で作ったものほとんど変わらないということです。

マイバッグ持参の買い物、ゴミを出さない工夫、食べ残しをしないなど一人ひとりができることで、愛するさぬき市、そして地球を守りたいと思います。これからも「心をひとつにして」をスローガンに、持ち前の人情、笑顔、元気で地域の皆さんに喜んでいただけるさぬき市商工会女性部となるよう、部員一同力を合わせて頑張っていけます。